



# ほむる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】 凡事徹底

井芹 貴志 著 内外出版社

ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2022年3月1日 Vol. 233

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

代表取締役 渡邊 敏徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地

TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

## ハインリッヒの法則

アメリカの損害保険会社の安全技師であったハーバート・ウィリアム・ハインリッヒが提唱した法則です。1件の重大事故が起こる背景には29件の軽微な事故と300件の怪我に至らない事故があったことを発見し「災害防止の科学的研究」という本でこの法則を発表しました。ハインリッヒの法則は労働災害における怪我の程度を分類し、その比率を表しています。その数字から1:29:300の法則と呼ばれることもあります。

ハインリッヒの法則が示しているのは重大事故の背後には一定数の軽微な事故や「ヒヤリ・ハット」があるということです。重大事故になるか「ヒヤリ・ハット」で済むかはあくまでも確率の結果であるということです。

重大事故になるか「ヒヤリ・ハット」になるかは偶然であり、サイコロを振って出た目が1だったか6だったかと同じという考えです。330面のサイコロのうち、1つの面が重大事故であり、29面が軽微な事故、残りの300面が「ヒヤリ・ハット」であると想像するとわかりやすいと思います。重大事故という「結果」は不安全な行動や不安全な状態という「原因」から生まれるものであり、重大事故と「ヒヤリ・ハット」はひとつのサイコロの異なる面でしかないと考えられます。

これらの研究成果で重要なことは、比率の数字ではなく、災害という事象の背景には、危険有害要因が数多くあるということであり、ヒヤリ・ハット等の情報をできるだけ把握し、迅速、的確にその対応策を講ずることが重要になります。

失敗学(畑村洋太郎)によると、「失敗とは、人間が関わって一つの行為を行ったとき、望ましくない、予期せぬ結果が生じること」と言っています。ミスが起きた時に目に見えるのは「結果」だけなので、まだ見えていない「原因」を探していくことが必要になります。

その「原因」には「要因」と「体質(会社・人)」の2つから構成されています。「体質」は組織や人間の「特性」なので、ミスをなくす仕組み作りから会社の体質改善に取り組むことが求められます。



小さな中小企業ではこの役割を従業員のリーダーに任せるのではなく、社長が率先してやっていくことが大切になると思います。

## 飲める水道水

私たち日本人にとっては、蛇口をひねれば水道水が飲めるものというのは常識です。しかし、これはかなり希少な例で、世界では水道水をまともに口にできない国が殆どだそうです。

2021年、国土交通省が発表した『平成30年版 日本の水資源の現況 第7章 水資源に関する国際的な取り組み』等によると、水道水をそのまま飲用できるのは日本を含め僅か10カ国のみとなっています。水道水をそのまま飲める国は、日本、南アフリカ共和国、オーストリア、アイスランド、アイルランド、スロベニア、デンマーク、ドイツ、フィンランド、ノルウェーです。その他に、オーストラリアのシドニー、スウェーデンのストックホルムの2都市が水道水をそのまま飲むことができるそうです。この10カ国のうち7カ国がヨーロッパの国で、アジアでは日本だけになります。

「水源を確保できない」「水質が悪く不衛生」「水道設備が整っていない」などが水道水を飲めない主な理由になるそうです。ここ数年環境問題が世界中で大きく問題視されSDGs(持続可能な開発目標)も各国で取り組まれています。私たちはとても恵まれている自然環境にいますが、その自然が多く水源が豊富な環境がいつまでも安心して使っていけるようにしていきたいものですね。そして水道水のインフラ整備はこれから益々重要になってくると痛感します。



### 【座右の銘にしたい名言】



私がこの世に生きてきたのは 私でなければできない仕事があるからなのだよ。

(相田みつを / 日本の詩人、書家)